

3 記録を考察してまとめる

今後の課題をもつ～テントウムシを飼おう～ 5歳児 学校法人山梨学院 山梨学院大学附属幼稚園

<5月17日～> 園庭にある木の枝や葉に、テントウムシの幼虫を発見。飼うことになった。その後、子どもたちは本で、テントウムシの名前、餌、成長過程を調べたり、餌を探したりしていた。幼虫がアブラムシを食べる様子を虫めがねで熱心に観察する姿も・・・

あ、いたいた！！
アブラムシ発見！！
たくさん捕ってっ
あげよう！



虫めがね
使うと、
見付けや
すいよ！



いつテントウ
ムシになるん
だろうね？



早くなるん
いいね！

<保育者の工夫>

虫めがねは安全な使い方を伝えたくて、いつでも子どもたちが使えるよう用意している。今回はアブラムシ採りにも活用していた子どもたち。どの位置に持ってきたらよく見えるかなどは、体験を通して身に付けていってほしいと思っている。

<保育者がうれしく思った「科学する」子どもの姿>

探す 道具を使って見つける 自分たちで飼育する 観察する 気付いたことを伝え合う

<5月24日> 21日に色が変わってからしばらく変化がなく、「死んじゃったのかな？」と、心配になる。子どもたちは、虫かごを覗いてすぐ、色が濃いオレンジになっていること、背中に黒い点々模様が浮き出ていること、お尻を上下に動かしていることに気が付いた。先生たちに説明に行く子どもたち。 D児：「脱皮（羽化）するんじゃない？」

いつテントウ
ムシになるん
だろうね？



羽化してすぐ…



必死に観察



体の色が変わり、模様も
でき、すっかり成虫

<5月27日> 休み明けの月曜日の朝、子どもたちが虫かごを覗くと、ちょうどサナギから羽化した直後。羽化してすぐのテントウムシにみんな興味津津。虫かごを取り囲み、「見せて！」「見せて！」と必死に覗きこむ子どもたち。羽の色や動きを熱心に観察！

A児：「あ！！テントウムシが脱皮（羽化）したよ～！！」 子どもたち：「えー！！すご～い！！」「見せて見せて」

A児：「生まれたばかりだから、まだ羽が黄色いんだよ」「中から長い羽が出るね」

B児：「なんでだろう～？」 子どもたち：「分からない」「なんで～？」

しばらく待っていたが、答えが出ない様子だったので、保育者は、「濡れてる羽を乾かしているんだって」と言う。

子どもたち：「へえー！！そうなんだ」「乾かしているんだってー」 A児：「いつ羽の色が変わるのかなあ？」

B児：「模様もないもんね」 A児：「ナミテントウだから黒くなるのかな…？」 C児：「赤かもしれないよー」

B児：「早く色が変わるといいね」

それから数日の間に、体の色がだんだん濃くなり、2つの点々が浮き上がってきた。その後3匹が順番に羽化し、テントウムシの成虫へと変身していった。

<保育者の工夫と反省>

自分の目で発見する喜びを味わってほしいという思いから、子どもたちが気付くまで見守るようにしている。「羽を乾かしている」という答えを先走って伝えてしまったことは反省。子どもたちが自分たちで調べられるよう励ますことができたと思う。また、「サナギから羽化する瞬間」を見せてあげられなかったことも反省している。サナギを冷やして時期を調整したり、ビデオで録画しておけるようにしたりといった工夫が必要だったと思う。なお、「羽化」を「脱皮」と言っていた子どもたちには、後で、図鑑と一緒に調べながら、正しくは「羽化」ということを伝えていった。

<保育者がうれしく思った「科学する」子どもの姿>

変化に気付く よく観る 気付いたことを伝え合う 自分たちで調べようとする よく観て比べる

<保育者の工夫と反省>という保育の振り返りをするにより、今後の課題が明らかになっています。<保育者がうれしく思った「科学する」子どもの姿>から記録を見直すことは「科学する心」の体験を捉えることに繋がります。記録から分かった考察や課題から、今後の方向性を見出すことは、明日の保育に活かせる記録のまとめとなるのが期待できます。